

第3回 北信越体育・保健体育ネットワーク研究会報告



～トキめきラウンド・子どもの体力向上

指導者養成研修をシェアする～

今年度の「子どもの体力向上指導者養成研修（東部地区）」が新潟市で行われました。今回のラウンドは、指導者・受講者を招いてその内容をシェアし、北信越から全国へ情報を発信したいと考えました。当日は、運動会の前日にもかかわらず、新潟市及び北信越各県より幼保小中高の教員・教育委員会関係者・大学関係者の皆さん33名の参加を得ました。講師には、つい2時間前まで講師2をしてくださっていた3名の先生方にわざわざ残っていただきました。おかげさまで、ホットな情報をいただくことができ、体育科教育の充実に向けて、熱く語り合う機会となりました。

- 1 期日 平成26年5月23日（金） 午後4時30分～6時45分
- 2 場所 パティールーム「プラスサード（plus 3rd）」（新潟駅前）
- 3 内容

【研修会講師による講習会の報告】

①千田幸喜様（岩手県教育委員会スポーツ健康課指導主事）

「E：ボールや用具の操作と動きの質を高めるコース（中高）」

- ・ソフトボール以前の基本から入ったことが大変ためになった。
- ・用具の工夫がたくさんあった。（ボール、バット、ラケット、ベースなど）
- ・多様な基本練習や安全のための工夫が紹介されていた。（バットをコーンに入れる等）
- ・様々なルールがあった。（並んでアウト、フィルダーBB、残塁BBなど）
- ・キャッチアンドスローで投動作の習得。（写真参照）



②佐々木美奈子様（宮城県総合教育センター指導主事）

「A：幼児が楽しく体を動かすことをとおして基礎的な動きづくりを図る部会」

- ・幼小の連携の重要性をまず認識し、「内発的動機付け」「有用感」「自己決定」「多様な動き」の4視点を確認。
- ・レポートリー（種類を増やす）とバリエーション（発展した動き）の視点で多様な動きを体験させる。
- ・フープをハンドルに見立てたストーリー性のある多様な運動遊びの紹介。



②伊地知裕様（鹿児島県総合体育センター指導課研修係長）

「B：様々な動きづくりや運動の計画をとおして体力の向上を図る部会（小中高）」

- ・今回は初めて小中高がいっしょ。その意義は大きかった。
- ・同じような運動でも発達に応じてねらいが違うので、ねらいをしっかりとって運動に取り組ませる。
- ・効率のよい組み合わせとバランスのよい組み合わせ。



【グループ討議】コーディネーター 長谷川 智（新潟市立中野山小学校校長）

後半のグループ討議では、長谷川校長先生の軽妙なコーディネートで以下のような報告内容がシェアされました。

- ・幼小の連携の重要性が改めて確認され、保護者への啓発の必要性も認識した。（A）
- ・体づくり運動を小学校段階でしっかりとして中高へつなげる重要性が分かった。（B）
- ・各種資料を有効に活用し、ねらいに沿ったプログラムを準備する必要がある。（C）
- ・運動の楽しさを味わわせているか改めて思い直した。（D）

最後のまとめでは、次の学習指導要領の改訂がはじまっている中で、これまでの体育の課題をどのように解決していくか、私たちに課せられた使命が大きいことを実感しました。

